

1. 件名：使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（増設）の耐震設計に係る面談
2. 日時：令和4年1月18日（火）13時30分～15時00分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

新井安全審査官、高木係長、高木技術参与

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当7名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、今後増設を予定している使用済燃料乾式キャスク仮保管設備の耐震評価方針及びその検討状況について、主に以下の説明があった。
 - 今後、原子炉建屋の使用済燃料プールに保管中の燃料体を共用プールで受け入れることを見据え、あらかじめ共用プールに保管中の燃料体を乾式キャスクに移して、共用プール内の空き容量を増やすため、使用済燃料乾式キャスク仮保管設備の増設を計画している。
 - 使用済燃料乾式キャスク仮保管設備については、昨年9月8日の原子力規制委員会で示された「令和3年2月13日の福島県沖の地震を踏まえた東京電力福島第一原子力発電所の耐震設計における地震動とその適用の考え方」を踏まえ、現在設計中である。
 - このうち耐震評価については、Ss900の適用における使用済燃料乾式キャスク仮保管設備の主要設備に対する影響評価を進めているところである。
 - 評価が完了予定の本年5月中を目処に実施計画の変更認可申請を予定している。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
 - 変更認可申請の際には、乾式キャスクの耐震性を評価するにあたっての評価内容の詳細を説明するとともに、乾式キャスクに要求される除熱や遮蔽等の基本的安全機能についても説明すること。

6. その他

資料：

- 使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（増設）の耐震設計について

以上